

## 日本・アジア／米国間コンテナ貨物の荷動き動向について

(2015年6月〔往航〕速報値)

(公財)日本海事センター・企画研究部

(公財)日本海事センター・企画研究部は、PIERS(Port of Import/Export Reporting Service)の統計データを基に、『日本・アジア／米国間のコンテナ貨物の荷動き動向』を毎月発表しています。

## 2015年6月の荷動きのポイント

**往航** 6月の往航荷動き量は131.7万TEUで対前年比6.2%増。

- 6月の往航荷動き量は、前年比4ヶ月連続の増加となる6.2%増の131.7万TEU。6月の単月では過去最高を更新するとともに、1-6月の累計は前年同期比4.3%増の730.2万TEUと過去最高を更新。一方、4-6月の四半期別では、前年同期比8期連続の増加となる5.5%増の387.6万TEU。国・地域別では日本積（前年比8.9%減）、韓国積（同3.2%減）、香港積（同4.0%減）などが前年比減少となったものの、中国積（同4.9%増）、台湾積（同12.4%増）、ASEAN積（同17.0%増）、南アジア積（同22.3%増）が前年比増加。なかでもベトナム積（前年比26.5%増）は過去最高を更新。品目別では「繊維及びその製品」（寄与度0.9%）、「一般電気機器」（同0.6%）、「家具及び家財道具」（同0.5%）、「おもちゃ」（同0.5%）などが増加に寄与。
- 船社別では、第1位（2014年の年計ベースの船社別順位、以下同様）の「EVERGREEN」が前年比5ヶ月連続の増加となる5.9%増の13.2万TEU（全体に占めるシェア10.05%）、第2位の「MAERSK」が同7ヶ月連続の減少となる5.4%減の11.9万TEU（同9.03%）、第3位の「HANJIN」が同3ヶ月連続の減少となる0.01%減の8.7万TEU（同6.65%）。日本船社では「KLINE」が前年比5ヶ月連続で10%を超える増加となる17.8%増の8.2万TEU（同6.19%）、「MOL」が同3ヶ月ぶりの増加となる4.2%増の5.8万TEU（同4.42%）、「NYK」が同4ヶ月連続の増加となる12.2%増の6.3万TEU（同4.79%）。
- 日本積は、第3位（2014年の年計ベースの各国・地域の品目別順位、以下同様）の「自動車、トラック等のタイヤ及びチューブ」（前年比15.6%増）が前年比4ヶ月連続で10%を超える増加、第4位の「車両機器及び部品」（同3.7%増）が同6ヶ月ぶりの増加となったものの、第1位の「自動車部品」（同16.8%減）が同6ヶ月連続の減少、第2位の「車両機器及び部品」（同8.9%減）が同2ヶ月連続の減少となったことなどにより、同2ヶ月連続の減少となる8.9%減の5.2万TEU（全体に占めるシェア3.9%）。
- 中国積は、第1位の「家具及び家財道具」（前年比0.6%減）が前年比2ヶ月ぶりの減少となったものの、第2位の「繊維及びその製品」（同6.1%増）、第3位の「一般電気機器」（同12.4%増）、第4位の「おもちゃ」（同18.2%増）が前年比2ヶ月連続の増加、第5位の「床材・ブラインド等のプラスチック製品」（同5.6%増）が同5ヶ月連続の増加となったことなどにより、同2ヶ月連続の増加となる4.9%増の86.0万TEU（全体に占めるシェア65.3%）。また、香港積は、前年比3ヶ月連続の減少となる4.0%減の3.3万TEU（全体に占めるシェア2.5%）。なお、中国・香港積合計では、前年比2ヶ月連続の増加となる4.5%増の89.3万TEU（同67.8%）。
- 韓国積は、第3位の「自動車、トラック等のタイヤ及びチューブ」（同21.9%増）が前年比4ヶ月連続で20%を超える増加、第4位の「車両機器及び部品」（同21.5%増）が同3ヶ月連続で20%を超える増加となったものの、第1位の「自動車部品」（同9.8%減）が同2ヶ月連続の減少、第2位の「一般電気機器」（同16.4%減）が同3ヶ月連続で10%を超える減少となったことなどにより、同4ヶ月ぶりの減少となる3.2%減の6.2万TEU（全体に占めるシェア4.7%）。
- 台湾積は、第1位の「自動車部品」（前年比5.7%減）が前年比2ヶ月連続の減少となったものの、第2位の「建築用具及び関連品」（同19.1%増）と第4位の「床材・ブラインド等のプラスチック製品」（同37.3%増）が同5ヶ月連続で10%を超える増加、第3位の「家具及び家財道具」（同8.1%増）が同5ヶ月連続の増加となったことなどにより、同5ヶ月連続で10%を超える増加となる12.4%増の5.7万TEU（全体に占めるシェア4.3%）と好調維持。

- ASEAN積は、すべての国が前年比増加となり、過去最高を更新したベトナム積（前年比26.5%増）やタイ積（同13.8%増）などが前年比10%を超える増加となったことなどにより、全体では前年比4ヶ月連続で10%を超える増加となる17.0%増の18.5万TEU（全体に占めるシェア14.1%）。ベトナム積は、第1位の「家具及び家財道具」（前年比26.6%増）が前年比4ヶ月連続の増加、第2位の「繊維及びその製品」（同20.5%増）が同4ヶ月連続で10%を超える増加、第3位の「履物及び付属品」（同27.4%増）が同5ヶ月連続で10%を超える増加と上位品目が前年比20%を超える増加となったことなどにより、同4ヶ月連続で10%を超える増加となる26.5%増の7.2万TEU（全体に占めるシェア5.5%）。
- 南アジア積は、すべての国が前年比10%を超える増加となったことなどにより、全体では前年比5ヶ月連続の増加となる22.3%増の6.8万TEU（全体に占めるシェア5.1%）。インド積は、第3位の「香料、染料、化粧品原料」（前年比24.5%減）が前年比3ヶ月連続で10%を超える減少となったものの、第1位の「繊維及びその製品」（同17.2%増）が同12ヶ月連続の増加、第2位の「鋼材及びその製品」（同12.1%増）が同12ヶ月連続で10%を超える増加、第4位の「セメント、石、砂、粘土等」（同25.4%増）が同4ヶ月連続で10%を超える増加となったことなどにより、同4ヶ月連続で10%を超える増加となる24.0%増の4.7万TEU（全体に占めるシェア3.6%）と好調維持。

注：集計は、日本、韓国、台湾、中国、香港、マカオの他、ASEANのうちシンガポール、フィリピン、マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、カンボジア、ミャンマーの8ヶ国、南アジアのインド、パキスタン、スリランカ、バングラデシュの4ヶ国、合計18ヶ国・地域を対象としている。また、速報値ベースでの発表のため、後に数ヶ月前の数値に若干の修正が加わる場合がある。

表-1 2015年6月：積揚国・地域別荷動き

国・地域	往 航			復 航			インバランス (%)
	荷動量 (TEU)	前年比 (%)	シェア (%)	荷動量 (TEU)	前年比 (%)	シェア (%)	
18ヶ国・地域 合計	1,316,662	6.2	100.0				
日本	51,777	▲8.9	3.9				
韓国	61,864	▲3.2	4.7				
台湾	56,914	12.4	4.3				
中国+香港計	892,863	4.5	67.8				
中国	860,262	4.9	65.3				
香港	32,601	▲4.0	2.5				
マカオ	19	▲56.5	0.0				
ASEAN計	185,418	17.0	14.1				
シンガポール	8,363	20.4	0.6				
フィリピン	11,298	15.3	0.9				
マレーシア	22,649	8.4	1.7				
インドネシア	32,089	9.1	2.4				
タイ	35,160	13.8	2.7				
ベトナム	72,047	26.5	5.5				
カンボジア	3,687	6.3	0.3				
ミャンマー	126	89.3	0.0				
南アジア計	67,806	22.3	5.1				
スリランカ	3,624	31.9	0.3				
バングラデシュ	7,934	23.1	0.6				
パキスタン	8,785	10.0	0.7				
インド	47,463	24.0	3.6				
2015年1-6月累計	7,301,943	4.3					

## 往 航 (アジア 18ヶ国・地域 ⇒ 米国)

- 2015年6月のアジア18ヶ国・地域から米国へのコンテナ荷動き量は、前年比4ヶ月連続の増加となる6.2%増の131.7万TEU。6月の単月では過去最高を更新するとともに、1-6月の累計は前年同期比4.3%増の730.2万TEUと過去最高を更新。一方、4-6月の四半期別では、前年同期比8期連続の増加となる5.5%増の387.6万TEU。
- 国・地域別では、日本積(前年比8.9%減)、韓国積(同3.2%減)、香港積(同4.0%減)などが前年比減少となったものの、中国積(同4.9%増)、台湾積(同12.4%増)、ASEAN積(同17.0%増)、南アジア積(同22.3%増)が前年比増加。なかでもベトナム積(前年比26.5%増)は過去最高を更新。
- 品目別では、「繊維及びその製品」(寄与度0.9%)、「一般電気機器」(同0.6%)、「家具及び家財道具」(同0.5%)、「おもちゃ」(同0.5%)などが増加に寄与。
- 船社別では、第1位(2014年の年計ベースの船社別順位、以下同様)の「EVERGREEN」が前年比5ヶ月連続の増加となる5.9%増の13.2万TEU(全体に占めるシェア10.05%)、第2位の「MAERSK」が同7ヶ月連続の減少となる5.4%減の11.9万TEU(同9.03%)、第3位の「HANJIN」が同3ヶ月連続の減少となる0.01%減の8.7万TEU(同6.65%)。日本船社では「KLINE」が前年比5ヶ月連続で10%を超える増加となる17.8%増の8.2万TEU(同6.19%)、「MOL」が同3ヶ月ぶりの増加となる4.2%増の5.8万TEU(同4.42%)、「NYK」が同4ヶ月連続の増加となる12.2%増の6.3万TEU(同4.79%)。
- 積地別にみると、日本積は第3位(2014年の年計ベースの各国・地域の品目別順位、以下同様)の「自動車、トラック等のタイヤ及びチューブ」(前年比15.6%増)が前年比4ヶ月連続で10%を超える増加、第4位の「車両機器及び部品」(同3.7%増)が同6ヶ月ぶりの増加となったものの、第1位の「自動車部品」(同16.8%減)が同6ヶ月連続の減少、第2位の「車両機器及び部品」(同8.9%減)が同2ヶ月連続の減少となったことなどにより、同2ヶ月連続の減少となる8.9%減の5.2万TEU(全体に占めるシェア3.9%)。
- 最大の出荷国である中国積は第1位の「家具及び家財道具」(前年比0.6%減)が前年比2ヶ月ぶりの減少となったものの、第2位の「繊維及びその製品」(同6.1%増)、第3位の「一般電気機器」(同12.4%増)、第4位の「おもちゃ」(同18.2%増)が前年比2ヶ月連続の増加、第5位の「床材・ブラインド等のプラスチック製品」(同5.6%増)が同5ヶ月連続の増加となったことなどにより、同2ヶ月連続の増加となる4.9%増の86.0万TEU(全体に占めるシェア65.3%)。また、香港積は、前年比3ヶ月連続の減少となる4.0%減の3.3万TEU(全体に占めるシェア2.5%)。なお、中国・香港積合計では、前年比2ヶ月連続の増加となる4.5%増の89.3万TEU(同67.8%)。
- 韓国積は、第3位の「自動車、トラック等のタイヤ及びチューブ」(同21.9%増)が前年比4ヶ月連続で20%を超える増加、第4位の「車両機器及び部品」(同21.5%増)が同3ヶ月連続で20%を超える増加となったものの、第1位の「自動車部品」(同9.8%減)が同2ヶ月連続の減少、第2位の「一般電気機器」(同16.4%減)が同3ヶ月連続で10%を超える減少となったことなどにより、同4ヶ月ぶりの減少となる3.2%減の6.2万TEU(全体に占めるシェア4.7%)。
- 台湾積は、第1位の「自動車部品」(前年比5.7%減)が前年比2ヶ月連続の減少となったものの、第2位の「建築用具及び関連品」(同19.1%増)と第4位の「床材・ブラインド等のプラスチック製品」(同37.3%増)が同5ヶ月連続で10%を超える増加、第3位の「家具及び家財道具」(同8.1%増)が同5ヶ月連続の増加となったことなどにより、同5ヶ月連続で10%を超える増加となる12.4%増の5.7万TEU(全体に占めるシェア4.3%)と好調維持。
- ASEAN積は、すべての国が前年比増加となり、過去最高を更新したベトナム積(前年比26.5%増)やタイ積(同13.8%増)などが前年比10%を超える増加となったことなどにより、全体では前年比4ヶ月連続で10%を超える増加となる17.0%増の18.5万TEU(全体に占めるシェア14.1%)。積地別では、ASEAN地域最大のベトナム積は、第1位の「家具及び家財道具」(前年比26.6%増)が前年比4ヶ月連続の増加、第2位の「繊維及びその製品」(同20.5%増)が同4ヶ月連続で10%を超える増加、第3位の「履物及び附属品」(同27.4%増)が同5ヶ月連続で10%を超える増加と上位品目が前年比

20%を超える増加となったことなどにより、同4ヶ月連続で10%を超える増加となる26.5%増の7.2万TEU（全体に占めるシェア5.5%）。

- **南アジア積**は、すべての国が前年比10%を超える増加となったことなどにより、全体では前年比5ヶ月連続の増加となる22.3%増の6.8万TEU（全体に占めるシェア5.1%）。南アジア地域最大の**インド積**は、第3位の「香料、染料、化粧品原料」（前年比24.5%減）が前年比3ヶ月連続で10%を超える減少となったものの、第1位の「繊維及びその製品」（同17.2%増）が同12ヶ月連続の増加、第2位の「鋼材及びその製品」（同12.1%増）が同12ヶ月連続で10%を超える増加、第4位の「セメント、石、砂、粘土等」（同25.4%増）が同4ヶ月連続で10%を超える増加となったことなどにより、同4ヶ月連続で10%を超える増加となる24.0%増の4.7万TEU（全体に占めるシェア3.6%）と好調維持。

## 往航の品目別荷動き

- 往航荷動き量を品目別にみると、荷動きを牽引している**住宅関連3品目**【「家具及び家財道具」、「建築用具及びその関連品」、「床材・ブラインド等のプラスチック製品」】の合計荷動き量は、前年比5ヶ月連続の増加となる4.9%増の27.2万TEU（全体に占めるシェア20.7%）。内訳をみると、「家具及び家財道具」は、前年比4ヶ月連続の増加となる3.8%増の17.9万TEU（同13.6%）と9ヶ月連続の往航品目のトップ。「建築用具及びその関連品」は、前年比5ヶ月連続の増加となる6.2%増の3.8万TEU（同2.9%）。「床材・ブラインド等のプラスチック製品」も、前年比5ヶ月連続の増加となる7.8%増の5.6万TEU（同4.3%）。
- **繊維関連貨物**：「繊維及びその製品」は、前年比2ヶ月連続の増加となる7.8%増の15.1万TEU（全体に占めるシェア11.5%）。
- **電気製品**：「一般電気機器」は、前年比2ヶ月連続の増加となる8.4%増の9.9万TEU（全体に占めるシェア7.5%）。一方、「テレビ・ビデオ等の映像・音響製品」は、前年比3ヶ月連続の減少となる1.5%減の3.5万TEU（同2.7%）。
- **玩具類**：「おもちゃ」は、前年比2ヶ月連続の増加となる19.1%増の4.2万TEU（全体に占めるシェア3.2%）。
- **自動車関連貨物**：「自動車部品」は、前年比2ヶ月連続の減少となる5.2%減の5.2万TEU（全体に占めるシェア4.0%）。また、「自動車、トラック等のタイヤ及びチューブ」も、前年比3ヶ月連続の増加となる7.7%増の4.0万TEU（同3.0%）。
- 寄与度からみると、「繊維及びその製品」（寄与度0.9%）、「一般電気機器」（同0.6%）、「家具及び家財道具」（同0.5%）、「おもちゃ」（同0.5%）などが増加に寄与した。ちなみに上位10品目以外の寄与度は2.9%。

表-2 往航：2015年6月の品目別荷動き（上位10品目）

品目名	荷動量 (TEU)	前年比 (%)	寄与度 (%)	シェア (%)	前月比 (%)
1. 家具及び家財道具	178,758	3.8	0.5	13.6	▲3.8
2. 繊維及びその製品	151,045	7.8	0.9	11.5	10.9
3. 一般電気機器	98,644	8.4	0.6	7.5	▲6.9
4. 床材・ブラインド等のプラスチック製品	56,022	7.8	0.3	4.3	▲1.6
5. 自動車部品	52,231	▲5.2	▲0.2	4.0	▲1.7
6. 履物及び付属品	45,129	9.8	0.3	3.4	30.4
7. おもちゃ	42,049	19.1	0.5	3.2	6.4
8. 自動車、トラック等のタイヤ及びチューブ	40,038	7.7	0.2	3.0	4.0
9. 建築用具及び関連品	37,672	6.2	0.2	2.9	▲3.8
10. テレビ、ビデオ等の映像・音響製品	35,075	▲1.5	0.0	2.7	4.9

参考資料

表-3 米国内地域別(西岸/東岸/ガルフ)荷動きの構成比の推移

米国内地域 集計年(月)	往 航			復 航		
	西岸揚 (%)	東岸揚 (%)	ガルフ揚 (%)	西岸積 (%)	東岸積 (%)	ガルフ積 (%)
2010年	70.8	27.6	1.6	67.1	30.7	2.3
2011年	70.2	28.0	1.8	66.5	31.1	2.4
2012年	69.9	28.0	2.1	65.3	32.0	2.7
2013年	69.6	28.3	2.1	64.8	32.4	2.8
2014年	68.4	29.3	2.3	62.7	34.0	3.3
2013年1月	71.4	26.6	1.9	64.3	33.0	2.8
2月	71.9	26.1	2.0	64.8	32.5	2.6
3月	66.2	31.6	2.2	65.9	31.5	2.6
4月	71.1	26.7	2.2	64.6	33.0	2.3
5月	69.1	28.9	2.0	66.0	31.4	2.5
6月	69.8	27.9	2.3	64.3	33.0	2.7
7月	69.3	28.4	2.3	65.2	32.2	2.7
8月	67.1	30.5	2.4	66.1	31.2	2.7
9月	70.2	27.8	2.1	64.6	32.4	3.0
10月	67.6	30.1	2.4	64.0	33.1	2.9
11月	70.7	27.2	2.0	64.7	32.7	2.7
12月	68.9	29.2	1.9	64.7	32.3	3.0
2014年1月	70.7	27.4	1.9	63.7	33.2	3.1
2月	65.8	31.7	2.4	64.6	32.4	3.0
3月	69.3	28.4	2.3	64.5	32.6	2.9
4月	70.4	27.4	2.3	64.8	32.5	2.7
5月	68.7	29.0	2.2	64.2	32.7	3.1
6月	70.7	27.3	2.1	62.8	33.8	3.4
7月	67.5	30.1	2.4	61.2	35.3	3.5
8月	68.0	29.6	2.4	64.0	32.6	3.4
9月	68.4	29.3	2.3	61.1	35.3	3.6
10月	67.1	30.5	2.4	61.7	35.1	3.3
11月	67.4	30.4	2.2	58.2	38.2	3.6
12月	65.9	31.7	2.4	59.7	36.6	3.7
2015年1月	60.1	36.2	3.7	53.0	42.0	5.0
2月	60.8	35.9	3.3	58.5	37.1	4.3
3月	65.6	32.0	2.5	56.9	38.6	4.5
4月	65.2	31.5	3.3	58.3	37.6	4.1
5月	65.1	31.9	3.0			
6月	64.8	32.8	2.4			

表-4 船社別輸送量シェア(%)

順位	往航船社名	2013年	2014年	2015年1-6月
1	EVERGREEN	9.66	10.23	10.52
2	MAERSK	10.50	10.03	8.92
3	HANJIN	8.12	7.62	7.58
4	APL/NOL	7.55	7.00	5.94
5	COSCO	6.75	6.58	6.85
6	MSC	6.28	6.53	6.83
7	CMA-CGM	6.60	6.41	7.82
8	K LINE	5.56	5.57	5.81
9	HYUNDAI	5.76	5.23	4.46
10	YANG MING	4.97	5.01	5.11
11	OOCL	4.46	4.72	4.52
12	MOL	4.52	4.59	4.29
13	NYK	4.25	4.57	4.38
14	HAPAG-LLOYD	3.82	4.42	4.17
15	CHINA SHIPPING	4.89	4.38	4.60
	OTHERS	6.30	7.12	8.20
	TOTAL	100.00	100.00	100.00

順位	復航船社名	2013年	2014年	2015年1-4月
1	MAERSK	9.84	9.89	8.25
2	EVERGREEN	8.83	9.31	9.27
3	MSC	9.05	8.76	7.43
4	APL/NOL	7.83	7.18	7.00
5	HANJIN	7.59	7.13	7.96
6	CMA-CGM	6.17	6.01	7.85
7	OOCL	5.65	5.85	6.11
8	NYK	4.75	5.70	6.41
9	HYUNDAI	6.43	5.66	4.49
10	K LINE	5.65	5.63	6.16
11	YANG MING	5.51	5.49	5.16
12	COSCO	5.81	5.49	4.22
13	MOL	4.26	4.66	5.16
14	HAPAG-LLOYD	4.48	4.48	5.20
15	CHINA SHIPPING	3.89	3.65	2.87
	OTHERS	4.25	5.11	6.45
	TOTAL	100.00	100.00	100.00

(注)：単位は%、2014年(確定値)を基準とした順位。2015年は暫定値。